

生産的な海

原田尚美

東京大学大気海洋研究所

ISC Gサイエンス
2023の提言

一生産的な海 課題

海洋は未知。海洋生物の9割以上の種が未記載

健全な地球環境の回復と維持のために科学的知識を深めることが急務
→進化の長期的な視点も含めてそのメカニズムを理解・解明

国際的なデータベースや観測網の維持・発展、海洋分野を支える人材育成や教育

全海洋の41%が人間活動の影響を受けている→人間活動が海洋に与える影響を管理（生物移動経路の閉塞、外来種の侵入、防汚剤、農薬、医薬品、重金属、プラスチック、廃棄漁具（ゴーストギア）、騒音、人工光などによる汚染）→将来にわたる生態系サービスの継続

気候変動→水温や海水準の上昇、海洋の成層化、海洋酸性化、高潮や高波、海洋熱波などの極端現象の頻発化・激甚化、貧酸素化→海洋生物多様性の崩壊

「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」、2021年採択「G7 2030年自然協約」や2022年採択「G7オーシャンディール」「ネイチャーポジティブ」の推進

2022年12月「昆明・モントリオール生物多様性枠組（GBF）」→30 by 30（最も重要な沿岸生態系の保全と最も劣化した生態系の回復）のための国際的規制とインフラ

ー生産的な海ー 行動

提言1 海洋とその生物多様性を「保全」、「回復・復元」

- 違法・無報告・無規制（IUU）漁業の撲滅、大規模商業漁業、深海トロール漁業の規制、廃棄漁具の排除、乱獲を防止、持続可能な漁法に移行するための措置
- 養殖対象生物の輸出入、バラスト水、船体付着等を防ぐための規制強化・実行
- 小島嶼開発途上国（SIDS）含め、海洋生物多様性の損失に関連する社会経済的課題に対応するための財政的動機づけや支援を提供。海洋リテラシーと研究能力の向上、低所得国の生態系の保全、再生、回復のために自らの力を発揮し行動できるよう支援
- 海洋保護区（MPAs）およびその他の効果的な地域ベースの保全手段（OECMs）のさらなる確立を促進

提言2 持続可能な海洋環境

- カーボンニュートラルに向けたアクションを確実に実行
- 農業・畜産に由来する流出物やその他の陸上汚染物質の影響を含む沿岸海洋環境の管理
- 地域汚染および越境汚染を大幅に削減するための国際ルールおよび基準の設定
- 過剰な施肥や農薬の散布、抗生物質汚染につながるグレインフラに関して、海洋生態系や生物多様性に有害と判断される補助金やインセンティブをすべて撤廃

提言3 長期的実現

- 現地調査・研究に必要な資金、学生やキャリア初期の研究者育成
- モニタリング観測の支援強化
- 地球規模の観測ネットワーク強化、維持、管理、統合、集中化、可視化、公開推進